

青春18!?きっぷの旅ー海外編 ②

負の世界遺産「アウシュビッツ」へ

森ノ宮医療大学健康保健学部 理学療法学科 松田 淳子

2008年1月、ポーランドを訪ねました。目的はアウシュビッツ強制収容所跡に行くこと。アウシュビッツは第二次世界大戦時、ナチスドイツによって多くのユダヤ人が収容され、虐殺された悪名高き強制収容所があるところです。「負の」世界遺産としてユネスコにも登録されています。

子どものころから忘れられなかった地へ

アウシュビッツには小さいころから強い関心を持っていました。ドキュメンタリー番組でたびたび放送されたヒトラーとナチスドイツ軍のこと、その中に必ず登場する「アウシュビッツ」という言葉と悲惨な映像は忘れることのできないものでした。自分がその地に行くことなどは微塵も考えてみませんでした。ひょんなことから友人と「行ってみよう!」ということになりました。

のどかな田舎町に現れた収容所の建物群

日本からポーランド・クラクフへはフランクフルトで飛行機を乗り継いで行きます。アウシュビッツは、ポーランドの美しい古都クラクフから電車で約1時間のところにあります。夜遅くクラクフ(写真1)に到着した私たちは、翌朝、アウシュビッツ目指して出発しました。古めかしいコンパートメントに分かれた列車に乗って着いたところはのどかな田舎町。平原がずっと広がっているようなところでした。駅から10分くらい歩いたところにアウシュビッツ第一収容所(写真2)があります。今は博物館になっている第一収容所はレンガ造りの立派な建物が林立し、整然とした印象でした。

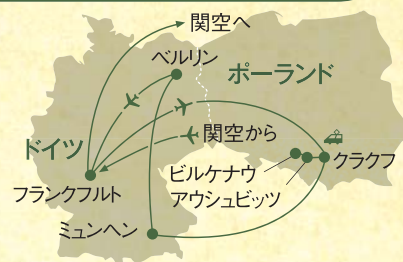
中には収容所に入った人たちのおびたしい数の靴やかばんや義足や日常生活道具がうずたかく盛られて展示されていました。中でも衝撃だったのが毛髪。収容された人は皆、髪を刈られ、その髪は織物などに利用されたそうですが、使われなかった毛髪が同じように展示しており、その大量の毛髪を前にしばし動けなくなりました。



【写真1】クラクフの街



【写真2】アウシュビッツ第一収容所



収容所行きの列車の終着地だった町、ビルケナウ

アウシュビッツにはもう1カ所、3kmほど離れたビルケナウというところに第二収容所があります。聴きなれない名前のそこそこが、子供のころから何度となくドキュメンタリー番組などで見てきた、またドラマ『白い巨塔』や人気番組『あいのり』の舞台にもなった、大量のユダヤ人が列車で運びこまれる場所でした(写真3)。

広い敷地に小屋(収容所)が点在している風景は、外から見たら果てしなくのどかで美しく、あんな残酷なことが行われたとは信じられない風景でした。しかし、保存されている小屋に一歩足を踏み入ると、そこは豚小屋以下の劣悪な環境(写真4)、10数個も穴だけがあけられた間仕切りのないトイレなど、それまで高い文化水準の暮らしをしていた人たちにはどれだけ屈辱的なことだったろうと思わずにはいられませんでした。

広大な敷地も、ナチスが撤退時に破壊したそのまが残されているガス室跡のがれきも、列車の引き込み線も、そのまま時を止めて残されている迫力に圧倒されました。なかったことにするのではなく、存在させ続けることで歴史を戒め、抗議する——これが当事国ドイツだったらこのまま残らなかったのではないかと思います。事実、この後ドイツ・ベルリンにある強制収容所跡も訪ねましたが、そこは整備され、美しい公園のようになっていました(写真5)。もちろん、記録映像なども流されていますが、何か温度の違いのようなものを感じずにはいられませんでした。

アウシュビッツは戦争と人間の残酷さの象徴のような場所でありながら、強く人を惹きつける場所でした。いつかもう一度訪ねることができたらと思っています。



【写真3】ビルケナウにある列車の引き込み線



【写真4】ビルケナウ強制収容所の内部



【写真5】ベルリン強制収容所の入口

[行程]

